

水害常襲地からの脱却！ 川との戦いから川とのふれあいへ



岩手県一関市
特定非営利活動法人 北上川サポート協会



手づくり郷土賞
について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編

1 社会資本の概要

北上川は総延長 249km、岩手県と宮城県を貫流する東北最大の河川です。この地域は狭あい部と呼ばれる場所であり、その地形の特徴から昭和 22 年カスリン台風、昭和 23 年アイオン台風、近年では平成 14 年の前線による大雨など幾度となく洪水被

害を受けて来た歴史があります。
しかしながら、母なる川として古来より各地域を結び、多くの人や物資がこの北上川を往来する事で、この地域の歴史・文化・産業や美しい風土が育まれてきました。



活動の場としている北上川



活動拠点である川崎防災センター

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

当協会がある岩手県一関市川崎町は、北上川、砂鉄川、千蔵川の 3 つの河川が合流する場所に位置し、古来から川の恩恵を受けるとともに水害の常習地でした。この経験から私達の中で「川は怖い場所」・「近づいては危険なもの」というイメージが強いものとなり、水辺に親しむ機会は薄れていきました。

川好きの個人が集まり、そのマイナスイメージを回復するため「川との共生」を目指そうという想い

が出発点です。地域住民と一緒に積極的な河川空間の活用と流域交流・連携や地域活性化を目的として、水辺創造活動（水生生物調査等）や環境保全活動（清掃活動等）、自然学習活動（カヌー体験等）等の多岐にわたる活動を行っており、中でも北上川流域交流 E ポート体験は E ポート大会としての規模は日本一であり、多くの参加者が水辺に親しむ機会へと繋がっています。



H14.7 台風 6 号による洪水被害
(北上川・砂鉄川合流点)



子供達を対象とした川の流れ方、
助け方の勉強会



地元小学生との水生生物調査

3 活動の成果や波及効果等

活動を進める中で、現在では、地元小学校の授業にも呼ばれるなど、地域から頼りにされるようになりました。中でも日本一の大会規模である、北上川流域交流 E ポート大会は、中学生の体験学習の場として活用されており、地域の中学 3 年生全員がボランティアスタッフとして運営に参加しています。子供たちは様々な大人たちから仕事を学び、地域の大人たちとの繋がりをつくっています。さらに、官と民が一緒になって会場設営から運営・撤収までを行っています。縦割りで行う仕事ではなく、地域イベントをみんなで作り上げる、みんなで盛り上げる体制が確立され、地域づくりの一助となっています。



北上川流域交流 E ポート大会の様子

●● 喜びの声 ●●



受賞者

特定非営利活動法人 北上川サポート協会
理事長 吉田 達男

コメント

このたび私達の活動が評価され「手づくり郷土賞」を選定いただいたことを大変嬉しく思います。これからも私達は、「川とのふれあい」を目的に川好きの仲間を増やしながら、地域のみなさんと一緒に活動に取り組んでいきたいと思っています。

活動の内容

水辺創造活動（水生生物調査等）や環境保全活動（清掃活動等）、自然学習活動（カヌー体験等）の他、人材育成活動（救命救急講習会等）など

活動の経緯

- 平成 16 年 「NPO 法人北上川サポート協会」設立
- 平成 18 年 「北上川流域交流 E ポート大会」の主管団体となる
- 平成 24 年 NPO 法人秋田パドラーズ主催の被災地支援活動への協力

所在地

岩手県一関市川崎町薄衣字如来地 100-1

活動主体及び連絡先

特定非営利活動法人 北上川サポート協会
(0191-36-5666)

対象となる社会資本

一級河川 北上川水系北上川・砂鉄川
※管理者：国土交通省東北地方整備局
岩手河川国道事務所



手づくり郷土賞
について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編